

# 令和元年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	所管部局	環境生活部	作成責任者	環境生活部長 築地原 康志	施策コード	03 — 14
		照会先	文化振興課調整G (内24-404)	関係課	文化振興課		

## Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)

### 【総合計画等の位置づけ】

政策体系	大項目(分野)		中項目(政策の柱)		小項目(政策の方向性)		総合計画の指標	
	3	人・地域	(4)	ふるさとの歴史・文化の発信と継承	A	北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承	北海道博物館の利用者満足度	
北海道創生総合戦略	A4212	北海道 強靱化計画			知事公約	C0077,C0080		
特定分野別計画等	北海道文化振興指針、北海道博物館基本計画							

### 1 目標等の設定

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性豊かな土偶や漆工芸を生み出した北海道と北東北3県(青森・岩手・秋田)に所在する縄文遺跡群について、早期の世界遺産登録に向けての取組を推進するとともに、道民の理解を深め、さらなる気運の醸成を図る必要がある。</li> <li>人々の生活意識や価値観の多様化などにより、物質的・経済的な豊かさだけでなく、日常の暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさが一層求められるようになり、文化に対する関心や期待の高まりがあることなどから、本道固有の歴史や様々な民俗芸能・生活文化などを継承、発信する取組を推進する必要がある。</li> </ul>	施策目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「北海道・北東北の縄文遺跡群」の早期の世界遺産登録に向けた取組を推進するとともに、北の縄文道民会議と連携した事業の実施など官民一体となった道民運動を展開する。</li> <li>多言語で作成した映像や縄文文化を紹介する冊子などにより、情報発信の強化を図る。</li> <li>北海道博物館を核として地域の博物館なども連携し、本道の固有の歴史や道内各地の様々な民俗芸能・生活文化などを次世代に継承し、発信する取組を推進する。</li> </ul>
-------	--	------	---

施策の推進体制 (役割・取組等)	政策体系	役割等	政策体系	役割等	施策の予算額	
	3(4)A	【縄文】 [縄文世界遺産登録推進本部]…4道県及び14市町 ・推薦書案の作成、国内推薦後のユネスコ諮問機関(ICOMOS)の審査対応 ・国内フォーラム開催、国際的合意形成の促進 [道及び北の縄文道民会議] ・パネル展、セミナー等普及啓発事業 [道] ・普及啓発事業や情報発信の強化など		3(4)A	【ふるさとの歴史・文化(北海道博物館)】 [道] ・北海道博物館において、資料の収集・保存、展示などを実施 ・北海道の自然・歴史・文化の調査研究、アルバータ州、サハリン州との共同研究の実施 ・北海道開拓の村における歴史的建造物等の施設整備 ・魅力あるイベントの開催や教材の充実による教育普及事業の実施 ・視覚に障がいのある利用者にも使いやすい体験学習教材の整備 ・あらゆる広報媒体を活用した戦略的な広報活動の展開 ・ウェブサイトやSNSを利用した北海道博物館の情報発信の強化 ・「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実現に向けた具体的検討 [市町村] ・道内市町村博物館、関係施設との連携 [博物館関係団体] ・北海道博物館は北海道の中核博物館として、日本博物館協会、北海道博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会と連携	H29
					H30	634,442
					R1	783,298

今年度の取組	政策体系	今年度の取組	政策体系	今年度の取組
	3(4)A	<p>【縄文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界遺産登録に向けた推薦書作成</li> <li>○国内推薦後のユネスコの登録審査準備</li> <li>○縄文文化に係るパネル・出土品の展示、普及啓発資材配布</li> <li>○縄文文化に係るセミナー・フォーラムの開催</li> <li>○縄文文化の持つ特徴やその意義、価値の大きさを映像資料や冊子等により国内外に広く発信する</li> </ul>	3(4)A	<p>【ふるさとの歴史・文化(北海道博物館)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料収集方針に基づく、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つ資料の収集</li> <li>◎総合展示の計画的な更新や、特別展(テーマ:H31「アイヌ語地名と北海道」)・企画テーマ展(テーマ:「アイヌ民族の衣服文化」、「エゾシカ」ほか)の実施</li> <li>○北海道の自然・歴史・文化などに関する専門的な調査研究、類似した地理的環境にあるアルバータ州、サハリン州の自然・歴史・文化に関する比較研究の実施</li> <li>○北海道開拓の村における歴史的建造物等の施設整備</li> <li>○利用者満足度のアンケート調査等を通じた利用者ニーズの把握</li> <li>○調査研究の成果を活用した講座等、利用者のニーズに対応した多彩なイベントなどの実施</li> <li>○視覚に障がいのある利用者にも使いやすい体験学習教材の整備</li> <li>○広報体制の強化、多言語対応のプロモーション映像をさまざまな機会・場所で活用</li> <li>○道内市町村の博物館などとの連携事業の実施、協働・交流を促進</li> <li>○ICTなどを利用した博物館・アイヌ文化に関する情報の発信</li> <li>○「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の具体化の検討</li> <li>○「デジタル・北海道アートミュージアム」の開館に向けた検討</li> </ul>

### 前年度付加意見への対応状況(平成31年3月末時点)

#### <意見区分； 施策目標の達成状況・事務事業の有効性>

	事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部局の対応(平成31年3月末時点)
施策 事務事業	0817	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	「ふるさとの歴史・文化の発信と継承」の推進に向け、アイヌ文化や縄文遺跡など北海道独自の歴史・文化について、北海道の「価値」として道民全体が共有し、国内外に北海道ブランドとして発信する環境整備をするため、道民が学ぶ・体験する機会等に関する取組を着実に推進できるように検討すること。	・道民が学ぶ・体験する機会づくりに向けた取組として、関係市町や団体と連携したセミナーやイベントを開催するとともに、縄文文化や遺跡群の認知度向上のため、空港やJR駅などにおいて、国内外に向けたPRに取り組む。(世界遺産登録推進費)

#### <事務事業評価 意見区分； 前年度評価結果への対応など>

	事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部局の対応(平成31年3月末時点)
事務事業				

# Do & Check 施策評価

## 1-2 取組の結果

### (1) 取組の実績と成果

政策体系	実績と成果等	関連する計画等			備考
		北海道 創生総合戦略	北海道 強靱化計画	知事公約	
3(4)A	○平成30年度は、北海道の自然、歴史、文化に関する貴重な資料として、蝦夷地場所請負人関係の文書資料(フラーシエム・N・良子資料)230件、継続的に収集している植物腊葉標本20件など、320件の資料を収集した。令和元年度は7月末までに37件を収集した。このほか、採集による資料収集を、平成30年度には研究プロジェクトに基づく貝化石など90件、令和元年度には10件行った。				
3(4)A	○総合展示では、令和元年度に来館者参加型展示の更新を実施したほか(R1.7)、平成30年度に各テーマで計48点の展示資料の入替えを実施した。また、収蔵資料を公開するために、定期的に展示を入れ替える「クローズアップ」展示コーナーの更新を実施し、平成30年度は全7ヶ所で計24回、令和元年度は7月末までに全7ヶ所で計9回の展示入れ替えを実施した。 ○平成30年度は、北海道150年事業の一環として特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」(H30.6～H30.8)を、令和元年度は特別展「アイヌ語地名と北海道」(R1.7～)を実施した。 ○平成30年度企画テーマ展「野幌森林公園いきもの図鑑」(H30.4～H30.6)、「りんご農家の道具」(H30.9～H30.11)、「アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ 博物館のはたす役割」(H31.2～H31.4)、令和元年度企画テーマ展「北の手仕事2019」(H31.4～H31.6)を実施した。また、平成30年度は、アイヌ文化巡回展を上川町(H30.8～H30.9)、及び標津町(H30.10)で「地名」をテーマに開催した。 ○他機関と連携した巡回展は、平成30年度には国立科学博物館巡回ミュージアム「生命のれきしー君につながるものがたり」(H30.12～R1.1)、令和元年度にはニュージーランドマオリ工芸学校日本巡回展「TUKU IHO 受け継がれるレガシー」(H31.4～R1.5)を開催した。				
3(4)A	○北海道の自然・歴史・文化などに関する専門的調査・研究として、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト(5課題)、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト(3課題)、「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」(4課題)、「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」(4課題)を継続して実施している。 ○ロシア・サハリン州及びカナダ・アルバータ州の博物館との共同研究として実施している「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクトとして、平成30年度は、ロシア・サハリン州郷土博物館から研究者2名を招聘し、道内において鳥類・昆虫類の生態、博物館資料等に関する共同調査を実施した(H30.7)。カナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館との友好館に関する覚書を再び取り交わした(H30.8)。令和元年度は、北海道博物館からロイヤル・アルバータ博物館へ研究者2名を派遣し、先住民族文化、恐竜化石・自然環境教育等に関する共同調査を実施した(R1.5)。 ○これらの研究成果を研究紀要等で公表するとともに、展示会や博物館教育活動等で活用することで、道民に還元した。				
3(4)A	○北海道開拓の村における歴史的建造物等の施設整備は、平成30年度は、地域の歴史的な文化資源、歴史的建造物を活用したまちづくりや地方創生を進めるために、「歴史文化資源を活かした交流・人材育成拠点整備事業」を旧若狭家たみ倉、旧龍雲寺において実施した(H30.4～H31.3)。また、平成30年台風21号ならびに北海道胆振東部地震による開拓の村建造物の被災にともなう補修工事を実施した(H30.9～H31.3)。令和元年度は、「歴史文化史源を活用した環境拠点整備事業」を旧武井商店酒造部、旧三ます河本そば屋において実施中である。				
3(4)A	○利用者ニーズの把握のため、特別展・企画テーマ展・巡回展の期間中に来館者アンケート調査を実施した。平成30年度については、展示については、概ね80%を超える高い満足度評価を得た。また、アンケート調査を通じて、利用者の多様なニーズの把握に努めた。				
3(4)A	○調査研究の成果に基づく講座・講演会や子ども向け講座「ちゃれんが子どもクラブ」、収蔵資料を活用した「ハンズオン」等の各種教育普及事業を実施し、H30年度には17,342人、R1年度には7月までに9,459人が参加した。 ○学校教員のための「北海道博物館学校利用ガイド」改訂版を作成し、各学校に配布した(H31.4)。また、学校団体が総合展示をより効果的に学ぶためのワークシートを開発し(H30.9)、ホームページからダウンロードできるようにした。これにより、学校団体が博物館を利用する際の利便性が向上した。				
3(4)A	○視覚に障がいのある利用者にも使いやすい体験学習教材の整備に向けて、平成30年度には、体験コーナーである「はっけん広場」にて、「はっけんキット」(体験教材)の表示に点字を付す試みを行った。また、視覚に障がいのある利用者から意見・改善案等を得るために、札幌視覚支援学校の教職員に来館してもらい、意見交換を実施し(H30.12)、同教職員による館内外の施設・設備の体験に基づく意見等を得た。令和元年度には「はっけん広場」における点字表示の試行を視覚に障がいのある利用者にも体験してもらい、改善点等の意見を得た(R1.5)。				

3(4)A	<p>○博物館広報の一環として、ウェブサイトやSNS等を活用して博物館情報を随時更新するなど、多角的な情報を発信して広報の強化を図るとともに、多言語対応のプロモーション映像を北海道庁旧本庁舎内「赤れんがサテライト」で運用するなど、情報発信機能を強化した。</p> <p>○「民族共生象徴空間交流推進官民応援ネットワーク」加盟団体に対して、令和元年度特別展「アイヌ語地名と北海道」の広報チラシを送付し、特別展のPRと関連情報の発信を行った。</p>				
3(4)A	<p>○道内のジオパークが所在する地域の博物館等と連携し、北海道博物館において「ジオパークまつり」を実施した(H30.7)。</p> <p>○平成30年度文部科学省委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」に参画し、道内各地で博物館関係者のための研修会やシンポジウムを協同して8回実施した(H30.9～H31.2)。</p> <p>○道内博物館の協働・連携としては、平成30年台風21号ならびに北海道胆振東部地震による道内博物館の被災状況の確認・集約・情報発信を、北海道博物館協会事務局として行った(H30.9)。</p> <p>○全国歴史民俗系博物館協議会の代表幹事館として、北海道博物館を会場として令和元年度年次集会を開催した(R1.7)。歴史と文化が地域社会の基盤として不可欠であることを再確認するとともに、有形無形の文化資源の継承を通じた社会貢献について、課題等の共有を図った。</p>				
3(4)A	<p>○ICTの活用として、多言語展示解説アプリ「ポケット学芸員」を赤れんがサテライト及び平成30年度特別展「幕末維新を生きる旅の巨人 松浦武四郎」で活用し、海外からの来館者に対するサービスの向上を図った。また、平成30年4月から、北海道開拓の村において、「ポケット学芸員」及び「Uni Voice」を導入して多言語(5か国語)による歴史建造物の情報発信機能を強化した。</p> <p>○三重県総合博物館で巡回展として開催された「幕末維新を生きる旅の巨人 松浦武四郎」において、子ども向けコーナーとしてアイヌ文化紹介展示を設置するにあたり、展示素材としてパネルデータを提供して助言を行うなど、道外でのアイヌ文化に関する情報発信・情報提供に努めた(H30.9～H30.11)。</p>				
3(4)A	<p>○北海道ミュージアム構想の中核施設となる北海道博物館や開拓の村などについて、今後も愛される施設となるよう、一体的な活用について推進を図るため、指定管理者との連絡調整会議を月1回開催している。</p> <p>○「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」について、北海道立総合博物館協議会において、議論の経過を説明するとともに、同協議会委員の意見をj得る機会とした(H31.3)。</p>				
3(4)A	<p>道民ワークショップや専門家ヒアリングなどを通じ、平成30年12月に「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」を策定した。R1年度は、北海道開拓の村の維持修繕活用方針の策定に向けた検討など、実施可能なものから順次、取組を進めている。</p>				
3(4)A	<p>○文化庁文化審議会世界文化遺産部会において、令和元年度の世界文化遺産の推薦候補に選定された。(R1.7)</p> <p>○イコモス(国際記念物遺跡会議)を想定した、海外専門家による現地調査を実施。(R1.8)</p> <p>○早期の世界遺産登録を目指し、関係県、市町と共同で推薦書案を作成するとともに、有識者を招いたフォーラムや「北の縄文道民会議」と連携したパネル展やセミナー等の普及啓発事業を実施するなど情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム(H30年度2回R1年度2回※予定)・パネル展(H30年度5回、R1年度6回※予定)</li> <li>・セミナー(H30年度5回、R1年度4回※予定)・啓発イベント(H30年度3回、H30年度3回)</li> </ul> <p>○遺跡群の学術的価値の国際合意形成を図るため、海外から専門家を招聘し、国際会議を東京都で開催。(4道県事業)(H30.5)</p> <p>○北海道の縄文文化の魅力や特徴を紹介する映像(多言語対応)や小冊子(日・英)をホームページで公開(H28～)するとともに、パネル展で放映・配布(H31.4)することで広く発信した。</p>	A4212		C0077	
3(4)A	<p>○「デジタル・北海道アートミュージアム」の開館に向けた課題・対応等を検討する検討会議の参画委員の選定を進めている。</p>				C0080

(2) その他の取組の成果等

国等要望・提案状況	<p>【縄文】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・H30.4月 国会議員連盟と4道県知事により、早期の国内推薦決定について、官房長官・文部科学大臣・文化庁長官へ要望</li><li>・H30.7月 4道県知事により、早期の国内推薦決定について、国会議員連盟役員や文部科学大臣へ要望</li><li>・H30.7月 平成31年度国の施策及び予算に関する提案:要望において、早期の国内推薦決定について要望(全庁要望・環生部要望)</li><li>・H30.11月 国会議員連盟と4道県知事により、早期の国内推薦決定について、文部科学副大臣へ要望</li><li>・H30.12月 国会議員連盟と4道県知事により、早期の国内推薦決定について、官房長官へ要望</li><li>・R1.6月 国会議員連盟と4道県知事により、早期の国内推薦決定について、文部科学大臣政務官へ要望</li><li>・R1.7月 令和2年度国の施策及び予算に関する提案:要望において、早期の国内推薦決定について要望(全庁要望・環生部要望)</li></ul>	施策に関する道民ニーズ	<p>[ふるさとの歴史・文化(北海道博物館)]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○北海道立総合博物館協議会委員(H30.6、H31.3)、アイヌ民族文化研究センター専門部会委員(H30.7)からの主な意見(下記意見は、上記協議会・専門部会委員からの共通意見)</li><li>・資料の収集・登録、公開・活用、研究成果の発信については、博物館の基礎となる事業なので、しっかり実施して欲しい。</li><li>・広報は、従来のやり方にとられない積極的・効果的な方法で取り組むべきである。</li></ul> <p>○道民ニーズの取組への反映状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・札幌市南区で収集した「りんご栽培」関係資料の整理作業を進め、企画テーマ展「りんご農家の道具」を実施して、いち早く収集資料の公開を行った。</li><li>・特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎」、「アイヌ語地名と北海道」では、会期前にマスコミ関係者向けの「展示説明会」を開催するなど、広報の強化を図った。</li></ul>
-----------	---	-------------	--

# 令和元年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03 - 14
-----	-------------------	-------	---------

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1)	Do & Check 施策評価
--------------------------------	-----------------

## 2 連携の状況

### (1) 施策間・部局間の連携

## 2-2 連携の取組状況

### (1) 施策間・部局間の連携

政策体系	連携内容	連携先		取組の実績と成果
		施策コード	関係部・関係課	
3(4)A	北海道博物館は、建設部建築局建築保全課等と連携して、北海道開拓の村歴史的建造物に関する歴史的技術及び文化財補修方法等に関する協議を進め、歴史的建造物の整備を実施する。	—	建設部建築局建築保全課、計画管理課、建築整備課	平成30年度に、建設部建築局建築保全課等と連携して、北海道開拓の村の旧武井商店酒造部、旧三匁河本そば屋の歴史的技術及び文化財補修法などの協議を実施して補修工事実施設計を進め、令和元年度に補修工事を実施中である。
3(4)A	北海道博物館は、環境生活部生物多様性保全課等と連携して企画テーマ展「エゾシカ」(仮)を開催することで、エゾシカ問題についての認知度向上およびエゾシカの有効活用の一層の促進、北海道エゾシカ管理計画をはじめとする道によるエゾシカ対策の取組についての一般道民への普及をはかり、エゾシカ対策の推進に資する。	0302	環境生活部生物多様性保全課(エゾシカ対策グループ等)、石狩振興局保健環境部環境生活課自然環境係、北海道立総合研究機構 環境科学研究センター	令和元年度の企画テーマ展「エゾシカ」の開催に向けて、環境生活部生物多様性保全課、石狩振興局保健環境部環境生活課自然環境係等と展示内容等に関する協議を重ね、準備を進めている。
3(4)A	北海道博物館は、道内の視覚支援学校ならびに視覚に障がい者支援団体等と連携・協働し、視覚に障がいのある利用者にも使いやすい体験学習教材を整備するとともに、視覚に障がいのある利用者を含む多様な市民にとって利用しやすい博物館活動を促進する。	—	北海道札幌視覚支援学校等	平成30年度に北海道札幌視覚支援学校との連携・協働により、同校教員と博物館職員との意見交換を行ない、視覚障がい者に対応できる体験教材・解説プログラム等の未整備状況を再確認した。これを踏まえて、令和元年度においても、同校と連携・協働して体験教材・解説プログラム等の整備に向けて準備を進めている。
3(4)A	北海道博物館は、環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課と連携して、これまでの研究成果を活用した特別展「アイヌ語地名と北海道」を実施するほか、アイヌ文化に関心を寄せる潜在層に対する教育普及事業や、学校教育・社会教育の現場に対する専門的な知識の提供等や、民族共生象徴空間のPRを実施する等、アイヌ文化に関する情報発信の強化を図る。	0313	環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課と連携して、令和元年度特別展「アイヌ語地名と北海道」を令和元年7月6日から開催した。また、同課を通して「アイヌ文化情報発信ネットワーク」でのアイヌ文化関係の展示・イベント情報を発信するとともに、関連事業の参加者に対してアイヌ語・アイヌ文化に関する専門的知識の提供を行っている。さらに、特別展関連パネル展示として象徴空間が開設される白老の地名を紹介するなど、民族共生象徴空間のPRを実施して、アイヌ文化に関する情報発信の強化を図った。</li> <li>・平成30年度の小中高校の教職員を対象とした博物館教育プログラム研修会において、「アイヌ文化の学習と指導方法」を取り上げ、博物館を活用した学習活動への理解促進を図った。</li> </ul>
3(4)A	世界遺産登録に向けた推薦書案作成、縄文文化に係るパネル・出土品の展示、縄文文化に係るセミナー・フォーラムの開催等や北海道立総合博物館の事業実施等に当たっては、必要に応じて教育庁文化財博物館課やアイヌ政策推進室と連携。	0313 1110	環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課 教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育庁文化財博物館課と連携し、世界遺産登録に向けた推薦書案を作成するとともに、縄文文化に係るパネル・出土品の展示及び縄文文化に係るセミナーを開催した。(・パネル展[H30年度5回、R1年度6回※予定]・セミナー[H30年度5回、R1年度4回※予定])</li> </ul>

(2) 地域・民間との連携・協働

2-2 (2) 地域・民間との連携・協働

連携内容	連携先	取組の実績と成果
<p>北海道博物館は、特別展「アイヌ語地名と北海道」及び関連する教育普及事業において、一般財団法人北海道歴史文化財団と連携して村内歴史的建造物に関する地名のパネル展示を行うほか、道内各地で実践されているアイヌ文化の普及・振興事業についての情報発信等を行うことによって、道内市町村や博物館施設等との協働・連携を進める。</p>	<p>一般財団法人北海道歴史文化財団、道内各地の市町村</p>	<p>・令和元年度特別展「アイヌ語地名と北海道」において、一般財団法人北海道歴史文化財団と連携して、北海道開拓の村敷地内で保存・公開している歴史的建造物に関する地名のパネル展示を実施した。                  ・道内市町村や博物館施設等から特別展「アイヌ語地名と北海道」関連行事の講師を招くとともに、関連行事の参加者に対して道内各地で実践されているアイヌ文化に関する普及行事・教育事業の情報提供を行うなど、協働・連携を進めている。</p>
<p>・北海道博物館は、アイヌ民族の伝統文化の中でも特に高い関心を集めている衣服文化を紹介するために、「北の手仕事2019実行委員会」との連携で、北海道各地の現代の作り手による作品を紹介する企画テーマ展「北の手仕事2019」を実施する。                  ・北海道博物館は、各種地域団体・企業等と連携して企画テーマ展「エゾシカ」(仮)を開催することで、エゾシカ問題についての認知度向上およびエゾシカの有効活用の一層の促進、北海道エゾシカ管理計画をはじめとする道によるエゾシカ対策の取組についての一般道民への普及をはかり、エゾシカ対策の推進に資する。</p>	<p>北の手仕事2019実行委員会(道内アイヌ刺繍製作団体等で構成)                  北海道大学・酪農学園大学等の大学・研究機関、一般社団法人エゾシカ協会、一般社団法人北海道消費者協会、生活協同組合コープさっぽろ</p>	<p>・「北の手仕事2019実行委員会」との連携で、令和元年度企画テーマ展「北の手仕事2019」(H31.4～H31.6)を開催し、北海道各地の現代の作り手による作品を、作者のメッセージも添えて紹介した。                  ・企画テーマ展「エゾシカ」の開催及び関連事業の実施に向けて、一般社団法人エゾシカ協会や生活協同組合コープさっぽろ等と協議を重ね、準備を進めている。</p>
<p>北海道博物館は、札幌市厚別区・江別市に位置する博物館や水族館・図書館など10の文化施設で構成する「かるちやるnet」の中心館として、北海道の歴史や文化、自然、科学を楽しく体験できるイベントを協働で実施する。</p>	<p>札幌市厚別区・江別市の文化施設</p>	<p>北海道博物館は、札幌市厚別区・江別市に位置する博物館や水族館・図書館など10の文化施設で構成する「かるちやるnet」の中心館として、各館の広報ならびに普及事業等の活動における連携強化を図り、ワークショップイベントや、「かるちやるnet」加盟館をめぐるスタンプラリーを実施した。</p>
<p>北海道博物館は、北海道の中核的博物館として、日本博物館協会支部長館、北海道博物館協会事務局館、全国歴史民俗系博物館協議会幹事館として、道内各地の博物館活動を支援する。</p>	<p>日本博物館協会、北海道博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会</p>	<p>・北海道博物館に北海道博物館協会事務局を置き、道内各地の博物館と連携し、北海道の中核的博物館の役割を担う取組を進めている。                  ・北海道博物館が日本博物館協会北海道支部長館ならびに全国歴史民俗系博物館協議会幹事館となり、全国的な博物館ネットワークにおける道内の窓口として、道内各地の博物館活動に対して連携・支援を行っている。また、令和元年度は、全国歴史民俗系博物館協議会の年次集会を北海道博物館を会場に開催した。</p>
<p>縄文文化に係るパネル・出土品の展示及びセミナー・フォーラムの開催等</p>	<p>北海道・北東北の縄文遺跡群の登録をめざす道民会議(略称:北の縄文道民会議)                  北海道縄文のまち連絡会                  札幌国際大学縄文世界遺産研究室</p>	<p>早期の世界遺産登録を目指し、有識者を招いたフォーラムやパネル展、セミナー等の啓発事業を連携して実施した。                  ・フォーラム(H30年度2回、R1年度2回※予定)                  ・パネル展(H30年度6回、R1年度6回※予定)                  ・セミナー(H30年度5回、R1年度4回※予定)                  ・啓発イベント(H30年度3回、3回)</p>

# 令和元年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03 - 14
-----	-------------------	-------	---------

## Plan (目標管理型行政運営システム実施要領 別紙様式1) Do & Check 施策評価

### 3 成果指標の設定 (H:平成、R:令和、大文字は年度、小文字は暦年) 3-2 成果指標の達成度合

主①	指標名	目標の基準		今年度の目標		最終目標		達成度合	A	評価年度	R1	達成度合の分析 ほか
		基準年度	H25	年度	R1	最終年度	R7					
	北海道博物館の利用者満足度	基準値	65.80%	目標値	70%	最終目標値	80%	目標値	70%	70%	80%	北海道の自然、歴史、文化を学ぶことができる展示構成やわかりやすい解説の実施、研究成果に基づく各種イベントやハンズオンなど来館者を楽しませる工夫、特別展などの企画展示の取組などに対して来館者から高い評価を受けている。総合展示の運営や魅力的な企画展の実施、各種イベントなどの活動に取り組んだ結果、事業効果が現れている。
		根拠計画	北海道総合計画	政策体系	3(4)A	増減方向	増加	実績値	76%	-	76%	
								達成率	233%	-	95%	
								達成率の算式	$\frac{((\text{実績値}-\text{基準値}) / (\text{目標値}-\text{基準値})) \times 100}{}$			
[指標の説明] 北海道博物館の利用者に対して行うオーディエンスリサーチ(利用者調査)で、施設全般に関して「満足」と回答した人の割合												

● 本施策に成果指標を設定できない理由	● 達成度合について					
	達成度合	A	B	C	D	-
	直近の成果指標の達成率	100%以上	90%以上 100%未満	80%以上 90%未満	80%未満	算定不可



令和元年度 基本評価調書

施策名	北海道独自の歴史・文化の発信と継承	施策コード	03	—	14
-----	-------------------	-------	----	---	----

Plan (目標管理型行政運営システム実施要領別紙様式1)

4 事務事業の設定

整理番号	政策体系	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度から の繰越事業 費(千円)	令和元年度					フル コスト (千円)
						事業費 (千円)	うち 一般財源	執行体制			
								本庁	出先機関	人工計	
0801	3(4)A	野幌森林公園施設整備費(施設建設 事業費)	野幌森林公園の施設改修等に関する業務	文化振興課		9,000	9000	0.0	0.1	0.1	9,797
0802	3(4)A	野幌森林公園管理費	北海道博物館及び野幌森林公園の維持運営のための業務	文化振興課		3,513	3,513	0.2	0.7	0.9	10,686
0803	3(4)A	野幌森林公園利用指導業務	野幌森林公園利用者の指導、苦情対応、普及啓発、広報、統計事務等	文化振興課		0	0	0.0	0.9	0.9	7,173
0804	3(4)A	野幌森林公園許認可業務	道立自然公園である野幌森林公園内における各種行為の申請等に係る許認可等業務	文化振興課		0	0	0.0	0.3	0.3	2,391
0805	3(4)A	北海道博物館事業費(情報システム 分除く)	北海道博物館の展示事業、教育普及事業等の実施	文化振興課		9,612	9,612	0.5	18.9	19.4	164,230
0806	3(4)A	北海道博物館事業費(情報システム 分)	収蔵資料データベースの管理、HP閲覧システムの運用経費	文化振興課		4,765	4,765	0.0	0.0	0.0	4,765
0807	3(4)A	北海道博物館試験研究費	北海道博物館の調査研究活動	文化振興課		14,278	10,300	0.0	10.1	10.1	94,775
0808	3(4)A	北海道博物館管理運営費	北海道博物館(本館)、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理運営 (指定管理業務)	文化振興課		338,638	338,253	1.2	2.1	3.3	364,939

0809	3(4)A	開拓の村・百年記念塔施設整備費	開拓の村の維持管理運営等に関する業務	文化振興課		2,215	2,215	0.7	0.5	1.2	11,779
0810	3(4)A	象徴空間誘客促進・地域連携事業 (アイヌ文化情報発信強化)	象徴空間の一般公開に向けた機運醸成等に係る経費 (アイヌ文化研究成果や知識の普及)	文化振興課		12,000	6,000	0.3	0.1	0.4	15,188
0811	3(4)A	象徴空間誘客促進・地域連携事業 (アイヌの歴史と文化展)	象徴空間の一般公開に向けた機運醸成等に係る経費 (北海道博物館特別展の開催)	文化振興課		10,000	5,000	0.0	0.3	0.3	12,391
0812	3(4)A	歴史文化資源を活かした交流人材育成拠点整備事業費(地方創生交付金)	旧武井商店酒造部、旧三ます河本そば屋の改修(体験イベント開催)	文化振興課		360,000	180,000	0.3	0.1	0.4	363,188
0813	3(4)A	世界遺産登録推進費	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産への登録へ向けた取組の推進	文化振興課		19,277	18,278	0.7	0.0	0.7	24,856
計						0	783,298	577,936	3.9	34.1	38.0

Do & Check 施策評価 一次政策評価結果(各部局等による評価)

5 一次政策評価結果と翌年度に向けた対応方針等

(1)成果指標の分析

政策体系	達成度合の集計					判定	成果指標の分析
	A	B	C	D	-		
	100%以上	90%以上 100%未満	80%以上 90%未満	80%未満	算定不可		
3(4)A	1					A・B指標のみ	<北海道博物館の利用者満足度【A】> 北海道の自然、歴史、文化を学ぶことができる展示構成やわかりやすい解説の実施、研究成果に基づく特別展・企画テーマ展や各種イベントの開催、ハンズオンなど来館者を楽ませる工夫等に対して、来館者から高い評価を受けている。戦略的な広報活動の展開やウェブサイトやSNSを利用した情報発信の強化を図るとともに、総合展示の運営や来館者の関心に即した特別展・企画テーマ展の開催、各種イベントなどの活動に取り組んだ結果、効果が現れている。
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
計	1	0	0	0	0	A・B指標のみ	

(2)取組の分析

基準1 (施策の推進に当たり対応すべきもの)		対応している (○あり→対応している)	対応しているとする理由
1	計画した取組を着実に進め、かつ社会情勢や道民の要請等を踏まえた課題等に対応しているか	○	調査研究プロジェクト、資料の収集・保管、展示・教育普及事業等を計画的に実施するとともに、利用者アンケートや北海道立総合博物館協議会からの意見を踏まえ、利用者ニーズに対応した企画展・教育普及事業の実施、広報事業の強化を進めている。
基準2～4 (施策の推進に当たり取組が認められる)		取組がある (○あり→取組がある)	取組があるとする理由
2	施策の推進に当たり、国等に要望・提案を行い、実現に向けて進捗しているか		
3	道民からのニーズを的確に把握し、施策推進に役立っているか	○	北海道立総合博物館協議会からの意見とともに、博物館の利用者に対して特別展や企画展の際にアンケート調査を実施し、満足度調査を実施して利用者のニーズの把握に努め、施策の推進に役立っている。
4	施策の推進に当たり、他の施策・部局との連携による成果を確認できるか	○	北海道150年事業としての平成30年度特別展「幕末維新を生きる旅の巨人 松浦武四郎」、令和元年度特別展「アイヌ語地名と北海道」等の特別展や企画テーマ展、関連する取組等において、関係する政策間・部局間で連携した成果を確認できる。
	施策の推進に当たり、地域・民間との連携・協働による成果を確認できるか	○	特別展・企画テーマ展の開催や教育普及事業の実施、道内博物館活動の支援など、政策の実現に向けた取組において地域や民間と連携・協働した成果を確認できる。
判定 (基準1が「○」で、かつ基準2～4のうち1つ以上に「○」がある→a、それ以外→b)			a

(3)総合評価と対応方針等

成果指標の分析		取組の分析	総合評価					
判定(計)		判定						
A・B指標のみ		a	概ね順調に展開					
対応方針			関連する事務事業			関連する計画等		
対応方針番号	政策体系	内容	方向性	事務事業整理番号	事務事業名	北海道創生総合戦略	北海道強靱化計画	知事公約
①	3(4)A	北海道固有の歴史や文化、自然の魅力などを伝え守っていくために、資料の収集・保存及び利活用も含めた北海道の自然・歴史・文化に関する専門的な調査研究、アルバータ州・サハリン州との共同研究を引続き計画的に進める。その研究成果を総合展示、企画展示、博物館の教育普及事業等に反映させる取組を進め、利用者ニーズに幅広く対応するとともに、道民参加型の展示、民間企業や地域と連携した企画展示などの企画を通して、地域の博物館を含めた外部との連携強化を進める。	改善(取組分析)	0805 0807	北海道博物館事業費(情報システム分除く) 北海道博物館試験研究費			
②	3(4)A	広報体制の強化を図るため、あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開するとともに、「赤れんがサテライト」の運用や、北海道歴史・文化ポータルサイト「AKARENGA(あかれんが)」の活用、多言語に対応したPR映像などによる情報発信機能を強化する。アイヌ民族文化に関する情報発信機能の強化を図るために、情報システム(ウェブサイト)の改善などを検討し効果的に実施する。	改善(取組分析)	0805 0806 0811	北海道博物館事業費(情報システム分) 北海道博物館事業費(情報システム分) 象徴空間誘客促進・地域連携事業 (アイヌの歴史と文化展)			

前年度付加意見への対応状況(事務事業)

事務事業整理番号	事務事業名	前年度付加意見	各部署の対応(評価時点)

Action 施策・事務事業評価

7 評価結果の反映

(1) 一次評価結果への対応

対応方針 番号	対応	事務事業
①	<p>&lt;新たな取組等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した情報発信機能を強化し博物館利用者の利便性向上を図り、道内博物館の資料情報や研究成果等を含めた文献、図書、催事情報等の集約・発信を行う。</li> <li>・資料、文献等のデジタル化を図り利用者の要望に対応し後世に貴重な遺産を未来へ継承する取組を進める。</li> <li>・サハリン州との国際友好交流の枠組みの中で、北海道とサハリン州の自然・歴史・文化の相互研究・学術交流を行い、両地域の歴史や文化・環境について理解を深める取組を進める。</li> <li>・寒冷地の自然と適応をテーマにロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流を行う。</li> <li>・北海道の恐竜・化石研究の最前線を紹介することにより、道民の教養向上を図るとともに、恐竜・化石資源を活用した地域づくりに貢献するため、民間企業等と連携し北海道博物館において「北海道の恐竜(仮称)」特別展を開催する。</li> </ul>	<p>改善:北海道博物館事業費(情報システム分除く) 改善:北海道博物館試験研究費</p>
②	<p>&lt;見直しを行った取組等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「AKARENGA(あかれんが)」などウェブサイトやSNSの活用による情報発信を強化し、利用者の要望に応える取組を進める。また、アイヌ民族文化および関連する歴史・文化・自然に関する情報の集約・発信を行ない、必要な情報システムの構築を図る。 (※あくれんがサテライトについてはあくれんが庁舎改修のため休館中)</li> </ul> <p>&lt;新たな取組等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ文化の魅力発信としてアニメを活用したPRを取り進めるとともに、子ども向けのアイヌ文化の体験学習用コンテンツの整備、学習用小冊子の増刷などを実施する。</li> </ul>	<p>改善:北海道博物館事業費(情報システム分) 拡充:象徴空間誘客促進・地域連携事業(アイヌの歴史と文化展)</p>

(2) 二次評価結果への対応(付加意見への対応状況)

(3) 事務事業への反映状況

方向性	拡充	改善	縮小	統合	廃止	終了	合計
反映結果	1	3					4

次年度新規事業 (予定)

整理番号	事務事業名	一次政策評価に おける方向性(再掲)	次年度の方向性 (反映結果)
0805	北海道博物館事業費(情報システム分除く)	改善	改善
0806	北海道博物館事業費(情報システム分)	改善	改善
0807	北海道博物館試験研究費	改善	改善
0811	象徴空間誘客促進・地域連携事業 (アイヌの歴史と文化展)	改善	拡充